

## Ⅱ.研修プログラムと 参加者の学び

※氏名・所属は参加当時のものです。

※教員による原文を生かしておりますので、  
一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

また、記載内容は JICA の見解とは異なる場合があります。



## 本誌によく出てくる言葉

### ●スーテーツァイ

モンゴルで親しまれている塩味のミルクティー。

### ●CU

モンゴルで人気の韓国発のコンビニ。

### ●ゾド

寒冷による家畜の体力消耗に加え、積雪や表土凍結により地表が覆われ牧草へのアクセスができなくなり、多くの家畜の命が奪われる自然災害。

### ●ホーミー

モンゴルに伝わる、一人で2つの声をだす歌い方。

### ●デール

モンゴルの伝統衣装で、ズボンと革靴を履いてたけの長い上着を着る。馬にまたがりやすいように足を開きやすい形になっている。

### ●ナーダム

毎年7月11日の革命記念日にひらかれる国民的なお祭り。競馬・相撲・弓の3つを競い合うモンゴルの夏の風物詩。

### ●ゲル

遊牧民の移動式住居。



## 主な訪問先

### ●市場志向型農業推進プロジェクト (MON-SHEP) サイト

市場のニーズに合わせて作物を育て、収入アップをめざす「MON-SHEP」に取り組む農家で、市場調査や計画的な栽培を実践している現場。

### ●新モンゴル小中高一貫校

創設者が日本の学校で学んだ経験を生かして設立された私立校で、英語教育や探究的な学びに力を入れ、国際社会で活躍できる人材育成をめざす学校。

### ●トルゴイト地域開発センター (現地NGO)

元々遊牧生活をしていた人々が多く住むゲル地区で、生ごみ堆肥づくりや家庭学習支援、サマーキャンプなど、住民のニーズに応じた地域づくりを進め、日本とも連携しているNGO。

### ●玉ねぎ品種改良・フードバリューチェーン構築モデル農場

モンゴルの気候に合う玉ねぎの新品種づくりに挑み、栽培から販売までの流れを整えながら地域ブランドの創出をめざすモデル農場。

### ●モンゴル日本人材開発センター

ビジネス研修や日本語教育を行い、日本とモンゴルの人材・文化交流を深める人材育成センター。



# 研修全体の日程



	場所	日程	内容
第一次 事前研修	JICA 北海道(帯 広)	2025/6/21(土) 13:00~18:10  2025/6/22(日) 9:00~12:30	オリエンテーション、概要説明、チ ームミーティング(自己紹介)、ワークセ ッション、過年度参加者による講座 「教師海外研修での学びと流れにつ いて」 授業づくりについて、モンゴル人と交 流、チームミーティング(テーマ決め)
第二次 事前研修	北海道立道民活 動センター(か でる2・7)  JICA 北海道(札 幌)	2025/7/19(土) 13:00~18:20  2025/7/20(日) 9:00~12:30	参加型手法を用いたミニ授業づくり 国際理解教育セミナー【実践編】  旅程確認、現地での活動準備
海外研修	モンゴル国	2025/8/2(土) ~8/10(日)	学校訪問、JICA プロジェクト現場視 察、草の根技術協力事業視察、NGO 活動現場視察等
事後研修	JICA 北海道(帯広)	2025/9/13(土) 13:00~18:30  2025/9/14(日) 9:00~12:20	指導案検討会 研修参加者は指導案を作成、他の研修 参加者および関係者と指導案を共有、 意見交換
成果報告会	JICA 北海道(札 幌)/オンライン	2025/11/29(土) 13:00~17:40  2025/11/30(日) 9:00~12:00	国際理解教育セミナー【共有編】 成果報告会を一般公開し、研修参加者 の研修報告および授業実践報告を行う  学びの共有、研修の振り返り
成果品の 作成		2025/3 月末	研修参加者の海外研修報告書及び実践 報告書を基に成果品として報告書を作 成し、関係者に配布(電子版および簡易 製本版)



日時：2025年6月21日（土）13：00～18：10  
6月22日（日）9：00～12：30

場所：JICA 北海道（帯広）センター

参加：研修参加者8名（北海道）、開発教育アドバイザー2名

JICA 北海道スタッフ、青年海外協力協会（JOCA）スタッフ、十勝毎日新聞社記者

目的：・参加者に期待されることを理解し、参加意識を高める

・参加型授業づくりとはどのような授業かを学び、どのように実践できるか考える

・参加者同士のチームビルディングをおこなう

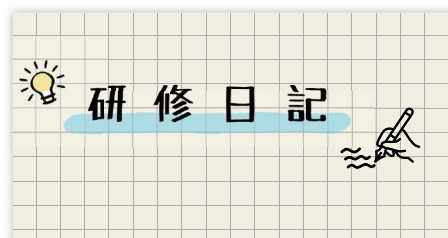
【1日目 6月21日（土）】

12:45～	受付
13:00～14:00 (60分)	<b>JICA 教師海外研修オリエンテーション 動画視聴</b> ※当プログラムは、全 JICA 国内拠点で一括して実施するため、共通の動画を視聴いただき、JICA・開発教育支援事業/教師海外研修・安全対策について等、研修参加に必要な知識を深めていただきます。 (同日午前中にオンラインで実施したものを視聴します)
14:00～14:10 (10分)	ご挨拶「JICA 事業に関わる皆様に期待すること」 JICA 北海道（帯広）代表 根本 直幸 教師海外研修に係る スタッフ紹介
14:10～14:25 (15分)	<b>【教師海外研修の概要説明①】</b> ・授業づくりの流れを確認（学ぶ→体験→つくる→実践→発表）
14:25～14:35 (10分)	休憩
14:35～14:45 (10分)	<b>【チームミーティング①】</b> 参加者自己紹介ワークショップ 4つの窓式 自己紹介 「私の名前は〇〇です、〇〇学校で〇〇を教えています。 この研修では〇〇〇を学びたいです。 私は…」 ・最近ハマっていること ・得意な事 ・感銘を受けた言葉、モットー ・モンゴルでやってみたいこと
14:45～15:15 (30分)	<b>【教師海外研修での学びと流れについて～より良い研修するために～】</b> 2024 年度教師海外研修（ザンビア）参加者 音更町立木野東小学校 杉村 萌 教諭
15:15～15:30 (15分)	質疑応答
15:30～17:30 (120分)	<b>【ワークセッション】 国際理解教育について</b> ～JICA の教育的資源を活かした授業づくり～  講師：開発教育アドバイザー 水谷 由美
17:30～17:40 (10分)	休憩
17:40～17:50 (10分)	<b>【チームミーティング②】</b> 役割分担（団長/副団長/会計/記録） ※参加者が主体となって学ぶ研修のため、様々な対応はチームで行うことになります。（スタッフは裏方を担います）

17:50~18:10 (20分)	<p>JICA 北海道（帯広）センター案内</p> <p>【海外と地域の繋がりを意識し、伝え方を考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道東地域と世界が繋がる結節点</li> <li>・SDGs 学習の拠点</li> <li>・世界各国の文化に触れる仕組み</li> </ul>
----------------------	--

【2日目 6月22日（日）】

8:45~	受 付
9:00~9:40 (40分)	<p>【参加型授業の体験と授業づくりについて】</p> <p>5年生家庭科「暖かく快適に過ごす着方・住まい方」 2023年度教師海外研修（キルギス）参加者 幕別町立札内北小学校 羽山 修斗 教諭</p>
9:40~9:45 (5分)	準備
9:45~11:05 (80分)	<p>【交流】十勝ではたらくモンゴルの方との交流</p> <p>コーディネーター・通訳：小林 志歩 様 在住モンゴル人：デギーさん (技能実習生、某スーパー食肉加工に勤務) スハーさん (5人家族で在住7年目、牧場で勤務)</p> <p>① 自己紹介：モンゴルの知りたい事を共有 ② モンゴル式ミルクティー体験 ③ グループ交流：十勝で働く2人の生の声に触れる（30分×2）</p>
11:05~11:10 (5分)	休憩
11:10~12:00 (50分)	<p>【チームミーティング③】 団長・副団長 進行 7月「モンゴルをテーマに参加型授業づくり」の準備 アドバイス：東峰 A 水谷 A</p> <p>&lt;2人一組であつまる&gt; &lt;テーマを決める&gt; A~D、①~④を選ぶ</p> <p>A.おなじとちがい ①歴史、文化（民族、言語、宗教 etc） B.つながりに気づく ②衣食住 C.社会課題 ③教育、社会システム、産業、観光 D.SDGs と私たちが出来る事 ④日本との関係、国際社会との関係</p> <p>&lt;準備活動&gt; ※参加者が主体となって学ぶ研修のため、様々な対応はチームで行うこととなります。（スタッフは裏方を担います）</p>
12:00~12:20 (20分)	<p>【教師海外研修の概要説明②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修日記の分担（報告書用記録）</li> <li>・各種事務手続きの流れ パスポート・渡航手続き・保険・現地スケジュール（予定）</li> </ul>
12:20~12:30 (10分)	<p>【諸連絡】 JICA 北海道</p> <p>【閉会】・集合写真</p>



6月21日（土）

研修名 第一次事前研修1日目

氏名 荒井 清貴

### ●研修内容、行ったこと

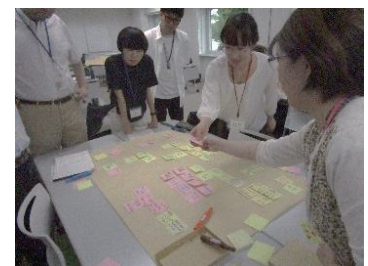
- ・教員海外研修の概要、研修の目的
- ・アドバイザー、スタッフ紹介
- ・教師海外研修での学びと流れについて：前年度参加教諭による講義
- ・ワークショップ：海外と地域の繋がりを意識し、伝え方を考える
- ・チームミーティング：自己紹介、役割分担

### ●研修で得た学び

全体研修の概要では、海外研修の意義や、海外での危険について改めて学ぶことができました。

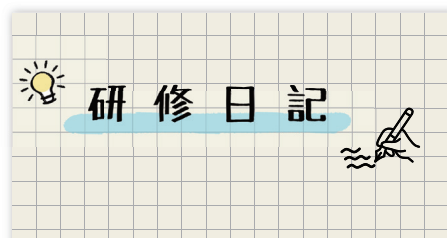
「教師海外研修での学びと流れについて」では、前年度教師海外研修参加者である杉村教諭のご発表を通して、研修には明確なねらいを持つことが重要であること、またそのねらいに沿った参加型学習を実施すること、さらに学びを「やりっぱなし」にせず、リフレクション（振り返り）を行うことの大切さを学びました。授業づくりを研修前に行うのか、それとも研修後に行うのかによって、それぞれにメリット・デメリットがあることについてもご教示いただき、研修に臨むにあたってのビジョンをより明確にすることができました。

ワークショップでは、国際理解教育についての基本的な考え方を学ぶとともに、実際に参加型学習の活動を体験しながら理解を深めました。マイクロディベートやマインドマップなどのアクティビティを通して、生徒に「何を大切にするか」という価値観を育む教育のあり方や、生徒の心を揺さぶり、「自分ごと」として考えさせる授業の重要性を実感しました。今後は、自分自身の体験から得た学びと参加型学習を組み合わせることで、生徒にとってより深く、意義のある学びにつながる授業づくりを実践していきたいと強く感じました。



### ●研修を受けて感じたこと

この研修を通して、授業づくりにおける考え方や視点を学ぶことができ、今後の実践にしっかりと生かしていきたいと強く感じました。マイクロディベートやマインドマップなどのアクティビティでは、さまざまな国での勤務経験を持つ JICA のスタッフの方々と意見交換をする機会もあり、教員の枠を超えた多角的なアイデアに触れることができた点も非常に有意義でした。また、モンゴルでの実地研修を通して、自分自身の価値観や教育観に新たな視点を加えたいという思いも一層強まりました。



6月22日(日)      研修名 第一次事前研修2日目      氏名 小野 竜大

### ●研修内容、行ったこと

はじめに2023年度教師海外研修(キルギス)参加者の糸山教諭による「参加型授業の体験と授業づくりについて」と題した、5年生家庭科の「暖かく快適に過ごす着方・住まい方」をテーマにした授業を体験しました。その後、十勝で働くモンゴル人の方々との交流セッションが行われました。技能実習生のデギーさんと牧場で勤務するスヘーさんのお2人から、モンゴルについて知りたいことをモンゴルのミルクティーやお菓子と共に話すことができる貴重な機会を頂きました。お2人が日本に興味をもったきっかけやモンゴルの気候、食べ物、そして学校の様子など興味深い内容がたくさんありました。最後に集合写真を撮ったことも大切な思い出です。その後、7月に行われる「モンゴルをテーマにした参加型授業づくり」のための準備として、2人1組で授業テーマ(歴史・文化・衣食住・教育・社会システム、産業、観光・日本との関係、国際社会との関係などの①～④のカテゴリから選択)を決める活動を行いました。また、研修全体に関する事務手続きの流れについて説明を受け、研修日記の分担やパスポート、渡航手続き、保険、現地スケジュールなどについての案内がありました。



### ●研修で得た学び

糸山教諭の参加型授業体験では、生徒が主体的に学び、考えを深めるための実践的な教材と指導法について、具体例を通して学ぶことができました。糸山教諭考案のカードゲームを実際に行うことで、授業の中で行うアクティビティを実感していきました。特に、児童生徒の興味を引き出し、「暖かく快適に過ごす着方・住まい方」「おなじとちがい」「つながり」「社会課題」「SDGs」について安全かつ円滑に進めるための準備の重要性を再認識させられ、今後の行動計画を具体化する上で役立つ情報でした。チームミーティングでは、校種によって「おなじとちがい」「つながりに気づく」「社会課題」「SDGsと私たちが出来る事」の達成のポイントを変えました。この時間で授業のアクティビティを考えることは難しかったですが、まずはやってみようという思いを大切にこれからも考え続け、7月の第二次事前研修では他のチームの授業も吸収し自分の財産にしていきたいです。



### ●研修を受けて感じたこと

2日間にわたる第一次事前研修を通じて、教師海外研修が単なる海外視察ではなく、「学び、体験し、つくり、実践し、発表する」という一連のプロセスの中で、参加者が主体となって学びを深めるものであることを強く感じました。特に、モンゴル人の方々との直接の交流は、貴重な経験であり、早くモンゴルで研修をしたいという気持ちをより強くさせました。いよいよ海外研修が現実のものとして目前に迫っていることを実感し、これまでの学びを活かし、残りの準備を着実に進め、モンゴルでの経験を最大限に吸収したいという気持ちが高まりました。





# プログラム 第二次事前研修①

## 国際理解教育セミナー【実践編】

日時：2025年7月19日（土）13：00～18：20

場所：北海道立道民活動センター かでる2・7 1010会議室、1030会議室

国際理解教育セミナー定員：30名

<b>【教師海外研修第二次事前研修】</b> 会場：1010会議室 <目的>・国際理解教育セミナー実践編に参加し、参加型手法を学ぶ。 ・参加型手法を用いてミニ授業づくりに挑戦することで、参加型手法に慣れ親しむとともにチーム力を高める。 ・今後の指導案作成に向け、その方法や心構えを学ぶ。	
12:45～	受付（1010会議室）
13:00～13:15 (15分)	<b>【JICA事業の紹介】</b> JICA北海道（札幌）所長 中川 岳春
13:15～13:55 (40分)	<b>【モンゴルをテーマにした参加型授業 第1部】</b> ① 山西先生 × 藤森先生 テーマ おなじとちがい、つながりに気づく × 衣食住 ② 本間先生 × 小野（竜）先生 テーマ おなじとちがい、つながりに気づく × 歴史、文化 →国際理解教育セミナー実践編参加のため 1030会議室へ移動
<b>【国際理解教育セミナー 実践編】</b> 会場：1030会議室 ちがいのちがい ～これってフツー？常識を疑うことからはじめよう！～	
13:45～14:00	受付（1030会議室）
14:00～14:05 (5分)	国際理解教育セミナー開会挨拶 JICA北海道（札幌）所長 中川 岳春
14:05～14:15 (10分)	<b>【アイスブレイク】</b> ちがいのBINGO！
14:15～15:15 (60分)	<b>【ワークショップ】</b> ちがいのちがい 講師：D-net 堀 幸美
15:15～15:20 (5分)	休憩
15:20～15:50 (30分)	<b>【振り返り・ワークのポイント】</b> 開発教育アドバイザー 東峰 宏紀
15:50～16:00 (10分)	告知、アンケート、国際理解教育セミナー閉会

16:00～16:10 (10分)	休憩
16:10～16:50 (40分)	<p>【モンゴルをテーマにした参加型授業 第2部】</p> <p>③ 菅井先生 × 山田先生          テーマ 社会課題 × 教育、社会システム、産業、観光</p> <p>④ 荒井先生 × 小野(瑞)先生          テーマ SDGsと私たちが出来る事 × 日本との関係、国際社会との関係</p>
16:50～17:50 (60分)	<p>【モンゴルをテーマにした参加型授業の振り返り】</p> <p>開発教育アドバイザー 東峰 宏紀          開発教育アドバイザー 水谷 由美</p>
17:50～18:05 (15分)	<p>【指導案の書き方について】</p> <p>※指導案フォーマット・実践報告集を使用          開発教育アドバイザー 水谷 由美</p>
18:05～18:20 (15分)	業務連絡・集合写真
18:20	閉会





プログラム

第二次事前研修②

日時：2025年7月20日（日）9：00～12：30

場所：JICA 北海道（札幌）センター

【第2日目】7月20日（日）	
＜目的＞・渡航前最終研修のため、現地でどのようにフィールドワークを行えるのか想定する。 ・授業の構想を練り、現地で必要な活動を洗い出す。 ・現地交流活動の準備について、チーム内ですすめる。	
8:45～	受付
9:00～11:10 (130分)	<p>【視察先について学ぶ】北海道とモンゴルのつながりを知る コンパス分析</p> <p>① 視察先について確認（北海道とモンゴルの関わりや各事業の目的など）</p> <p>② コンパス分析の手法を用いて視察先を分析する</p> <p>1回目：農業プロジェクト（北海道とモンゴルの繋がり）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・草の根技術協力事業「玉ねぎの品種改良による新ブランドの確立とフードバリューチェーンの構築」一般社団法人滝川国際交流協会</li><li>・技術協力「市場志向型農業推進プロジェクト（MON-SHEP）」</li></ul> <p>2回目：人材育成プロジェクト（日本の国際協力）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・モンゴル日本人材開発センター</li><li>・トルゴイト地区地域開発センター（現地 NGO）</li></ul> <p>③ 質問の精査 現地で行うインタビュー項目、渡航前に調べておくべきこと</p> <p style="text-align: right;">進行 JICA 北海道（帯広） 野々垣真実 A グループファシリテーター 東峰 宏紀 B グループファシリテーター 水谷 由美</p>
11:10～11:20 (10分)	休憩
11:20～12:20 (60分)	<p>【チームミーティング】交流案・交流に必要なもの・お土産案について</p> <p>＜現地交流予定＞</p> <p><b>新モンゴル学園サマースクールでの交流</b> 8月5日（火）9：00～12：30 対象：高校3年生（日本語中級レベル） 交流内容予定： 教員自己紹介 アイスブレイク グループディスカッション（テーマは後日）</p> <p>準備依頼： ・自己紹介 PPT⇒先生方8名の学校・担当科目がわかるもの（一人3分以内）</p> <p><b>NGO トルゴイト地域開発センターでの交流</b> 8月6日（水）11：00～15：00 対象：10歳～14歳の子ども 20名前後</p> <p>交流内容予定： 11：00～11：30 NGO スタッフから NGO 概要紹介（通訳あり） 11：30～12：00 先生方の日本紹介（通訳あり）</p>

	<p>12:00~13:00 日本の遊び、ダンス  13:00~14:00 昼食作り  14:00~15:00 食事、片付け、終了</p> <p>準備依頼：  ・北海道紹介、日本の学校紹介 PPT  ・3グループに分かれた日本の遊び紹介  ・子どもたちと一緒にダンス紹介  ・調理実習内容を決める/買い物リスト作り  （※日本の海苔巻きやおにぎり、サンドイッチ程度が望ましい）  ⇒スタッフもあわせると40名程度を想定  家庭農園があるので、キュウリやニンジンなどは NGO が提供  炊飯、お湯沸かし可能（買い物は道中に行く ※参加者負担）</p> <p><b>モンゴル・日本人材開発センター</b> 8月8日（金）9:00~13:00  対象：高校生～社会人 20~30名  交流内容予定： 9:30-10:15 センター事業紹介  10:20-10:30 日本語課講師よりフリートーク説明  10:30-12:45 夏季日本語初級コース参加  準備依頼：フリートーク（会話練習）の際は、既存の学習項目（後日共有）を参考に、文法・語彙を使った会話をしてほしい。その内容に関わる写真（スマホ等）を見せ合いながら話せると盛り上がる。</p> <p style="text-align: right;">進行 JICA 北海道（帯広） 野々垣真実  JICA 北海道（札幌） 桐山あす美</p>
12:20~12:30 (10分)	業務連絡
12:30	終了



# 研修日記

7月19日(土) 研修名 第二次事前研修1日目 氏名 山田 翔子

## ●研修内容、行ったこと

- ・ JICA 事業の紹介 (JICA 北海道 所長 中川岳春)
- ・ モンゴルをテーマにした参加型授業 (4つの案)
- ・ ちがいのちがい

～これってフツー？常識を疑うことから始めよう！～



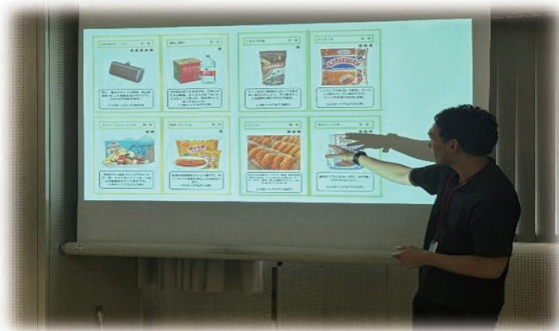
## ●研修で得た学び

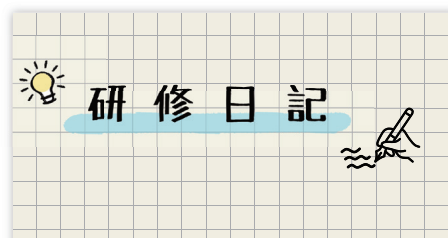
JICA 事業は、私たちの税金から成り立っており、開発途上国に対して、平たく言うと「国造り、人造り」の支援を実施している。日本は「食料を送る」などの直接的な支援だけではなく、「要請支援」を基本とし、それぞれの事業において有償資金協力・無償資金協力を行っている。チングスハーン国際空港は円借款で有償資金協力、天皇陛下が訪問されたモンゴル日本病院は無償資金協力であり、病院内で働く人材育成のサポートを実施している。

堀幸美先生が講師をしてくださった「ちがいのちがい」では、「あってはならないような2つの事例が同時に書かれているカード」を使った授業が行われた。この授業は、①ジレンマを通過した上での「共感的理解」、②多様性の尊重、③自分の中の偏見に気が付くこと、④自分は社会の中の一人だと自覚すること、⑤批判的思考の経験、5つのねらいがあることを知った。同じチームのメンバーとの対話を通して、いい意味での妥協点、つまり合意形成をしていくことの大切さも学んだ。

## ●研修を受けて感じたこと

4つのペアに分かれて行った参加型授業が、とても有意義な時間だった。それぞれ前回の学びを生かして、フォトランゲージ、ICT(Canva)の活用、カードゲーム、思考ツールなどを使って授業を行うことができた。今後は、細かなところを丁寧に詰めていかなければならない点が課題である。





7月20日(日)

研修名 第二次事前研修2日目

氏名 本間 千尋

## ●研修内容、行ったこと

### ①コンパス分析の手法を用いて4つの視察先について分析

～4つの視察先～

- ・一般社団法人滝川国際交流協会「玉ねぎの品種改良による新ブランドの確立とフードバリューチェーンの構築」
- ・市場志向型農業推進プロジェクト「MON-SHEP」
- ・モンゴル人材開発センター
- ・トルゴイト地区開発センター



### ②現地での交流、交流に必要なもの、お土産についてのチームミーティング

## ●研修で得た学び

今回の事前研修では、モンゴルの4つの視察先について、コンパス分析を用いて多角的に学びました。「自然・環境」「経済」「社会」「思考決定」の4つの視点から視察先について考えることで、それぞれのプロジェクトがモンゴルの社会課題や暮らしにどのように繋がっているのか、日本社会とも比較しながら考える機会となりました。中でも、「モンゴル人材開発センター」についての分析では、「将来は日本に行き働きたい」「日本で学びたい」と考えるモンゴルの若い人たちが日本語や専門的なスキルを学んでいることを知りました。現地研修では、「なぜ、日本に来たいのか。」「日本ではどのような仕事をしたいのか。」ということをより深く知ることができるようにしていきたいと思います。また、市場志向型農業推進プロジェクト(MON-SHEP)では、「作りたいものを作る」のではなく、「求められているものを作る」という考えに基づき、市場調査や研修などを行い、持続可能な農業を目指していることを知りました。コンパス分析によって浮かび上がった疑問を、現地での交流を通して直接尋ねたり、肌で感じたりしながら深めていきたいと思います。



## ●研修を受けて感じたこと

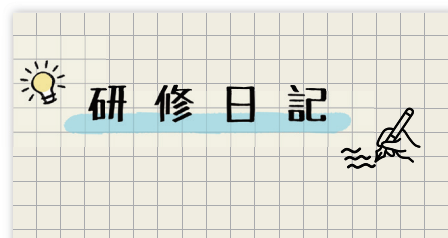
事前研修を経て、私は「支援とは何か」「モンゴルと日本とのつながり」を改めて考えるようになりました。モンゴルの人たちが、日本の言語や文化に対して関心を持っていることを知り、異なる文化や環境の中で共に学び合ったり、信頼関係を築いたりすることの大切さを感じると同時に、その難しさにも目を向ける必要があると感じました。現地交流では、事前情報だけではあまり見えてこなかったモンゴル人やモンゴルに住む日本人の願いや思いに直に触れたいです。また、この研修を通して得た気づきや問いを深め、自分なりの答えを探っていきたいと思います。その経験を通して、「子どもたちにどんな授業を届けたいか」を具体的に考え、帰国後の実践につなげていきたいです。



# モンゴル現地研修の行程



日付	時間	視察・訪問先	宿泊
8/2 (土)		国内移動 各空港→成田国際空港	東横イン 成田空港新館
8/3 (日)	22:50	ウランバートル着→ホテル	Bayangol Hotel
8/4 (月)	9:00-10:30	事務所ブリーフィング (事業説明) ・挨拶 (JICA モンゴル事務所宮城所長) ・事業説明 (鼻戸所員、アンダ所員)	Bayangol Hotel
	10:30-	両替、昼食、移動	
	14:00-15:00	市場志向型農業推進プロジェクト (MON-SHEP) サイト視察【技術協力事業】 ・農家圃場見学 ・帰国研修員インタビュー	
8/5 (火)	9:00-12:30	新モンゴル小中高一貫校【教育現場】 9:00-10:30 学校案内、サマースクール説明 10:40-12:10 サマースクール参加	Bayangol Hotel
		昼食、移動	
	午後	日本モンゴル教育病院	
8/6 (水)	終日	トルゴイト地域開発センターNGO【現地NGO】 帰途でデパートに寄り教材収集	Bayangol Hotel
8/7 (木)	終日	一般社団法人滝川国際交流協会による「玉ねぎの品種改良による新ブランドの確立とフードバリューチェーンの構築」モデル農場視察【草の根技術協力事業】	Bayangol Hotel
8/8 (金)	9:30-13:00	モンゴル日本人材開発センター ビジネス人材育成・交流拠点機能強化プロジェクト【技術協力事業+日本語教育】 9:30-10:15 センター事業紹介 10:20-10:30 フリートーク説明 10:30-12:45 夏季日本語初級コースフリートーク参加	Bayangol Hotel
	13:00-	昼食、事務所報告準備	
	16:00-17:00	事務所報告 (宮城所長、鼻戸所員)	
8/9 (土)	10:30- 13:20	ホテル発 羽田空港着	京急 EX イン 羽田
8/10 (日)		羽田空港→各空港	



8月3日（日） 研修名 モンゴル研修1日目 氏名 菅井 誠

### ●研修内容、行ったこと

13時20分、成田空港を出発し、韓国の仁川国際空港へ向かった。フライトは順調で、約2時間半の空の旅だった。仁川に到着後、3時間以上のトランジット時間を利用して、参加者全員で韓国の文化体験プログラムに参加した。伝統的な小物作りを体験したり、韓服を着て記念撮影をするなど、短時間ながらも韓国文化にどっぷり浸ることができた。自由時間には各自ショッピングを楽しみ、韓国ならではの土産を購入する人も多く見られた。

その後、空港内で翌日の市場志向型農業推進プロジェクト(MON-SHEP)に向けた質問事項について意見を出し合い、真剣な表情で討議に臨んだ。各自が自分の役割や関心をもとに、現地でのインタビューに備えた質問を練り上げる時間となった。そして、いよいよモンゴル・ウランバートルへのフライトへ。長時間の移動を経て、現地時間23時過ぎ、無事にチンギスハーン国際空港に到着した。



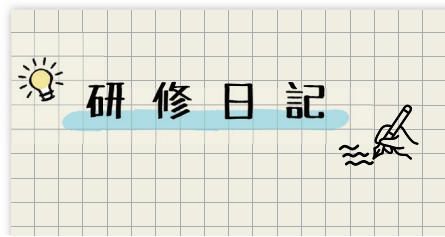
### ●研修で得た学び

短時間ではあったが、韓国の文化に実際に触れることができ、異文化理解への関心が一層高まった。また、研修メンバーでの事前討議を通して、個人の視点だけでなく、全体の目的意識を持って行動する重要性を感じた。

### ●研修を受けて感じたこと

心が刺激され、研修がいよいよ始まるという実感が湧いた。明日から始まる本格的なワールドワークに向け、最高の仲間たちと気持ちを新たに臨みたい。





8月4日(月) 研修名 モンゴル研修2日目

氏名 山西 真理

●研修内容、行ったこと

- ・ JICA モンゴル事業所訪問
- ・ 市場志向型農業推進プロジェクト(MON-SHEP)サイト視察【技術協力事業】
- ・ 農家圃場見学(萬谷専門家)
- ・ 家畜農家訪問

●研修で得た学び

JICA モンゴル事務所では、日本とモンゴルの繋がりや取り組みについて説明をしていただいた。その中で、学校教育や障がい児者の学びについて知った。都市部と地方では学校に通う場所が違い、都市部は専門的な学校がある一方で、地方は専門的な学校はなく、皆と同じ学校の中で学ぶ環境となる。学年問わず学ぶことが多く、親も一緒に同席した中で学習を行っている。障がいのある子どもたちが社会と繋がり、社会と共に生活するためのキャリア教育の課題解決に向け、社会問題(ゴミ問題など)から就労ビジョンを検討している取組があることを知った。

玉ねぎ農家では、天水、灌漑水、地下水を使用して農作物を育てており、特に地下水は豊富だということが分かった。また、農業を行うにあたって、面積と水は必要条件であることから、地下水は農業にとって、とても大きな役割を担っているのが分かった。また、家畜農家の訪問をさせていただき、昔ながらの伝統的な食文化を守りつつ、家畜や農家での自給自足で生活をしていることが分かった。また、現地の子どもと関わることができ、言葉が分からなくても、同じものを見て、感じて、一緒に笑うことで、子どもからの発信があり、交流することができ、言葉よりも大切なことを考えさせられる時間となった。



●研修を受けて感じたこと

自給自足の趣味で始めた栽培から、野菜農家になるまで、失敗を繰り返し、試行錯誤しながら取り組んだ成果を知れた。その過程の中には、野菜の必要性や未来への希望に自分たちで気付いたことが、大きな変化に繋がったのだと感じた。情報を更新し、精査していくことの大切さと、自らが考え、気付きが芽生えることで、どんな難しいことも変えられる力があるのだと感じた。残りの研修で、北海道で待っている子どもたちの心が揺れ動くための情報収集を行い、多くの気付きを得られるように人との関わりを楽しみたい。

# 研修日記

8月5日（火） 研修名 モンゴル研修3日目 氏名 小野 瑞貴

## ●研修内容、行ったこと

午前：新モンゴル小中高一貫校を視察（サマープログラムに参加）

午後：日本モンゴル病院

## ●研修で得た学び

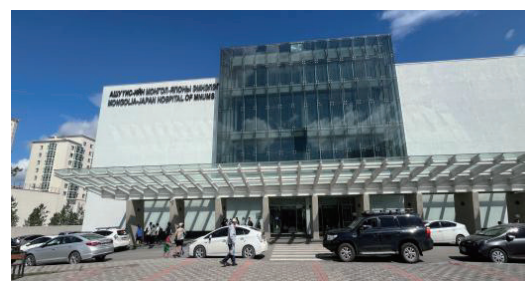
新モンゴル小中高一貫校では、サマープログラムに参加し、実際に高校生と交流する機会があった。その中で特に印象的だったのは、モンゴルの高校生が社会課題に対して示した真剣な姿勢である。社会課題を他人ごとではなく「自分ごと」として捉え、未来を見据えて考える姿は、学校の方針である「子ども一人ひとりの学びたい！という動機を支援する」理念と深く結びついていると感じた。自発的な学びを支える環境づくりの重要性について、改めて考えさせられた。

日本モンゴル教育病院では、院内を見学し、日本の支援を受けながらも、モンゴル初の大学病院として現地の医療人材育成や医療制度の改善に向けた取り組みが進められていることを知り、教育と医療の両輪で国の発展を支えている様子を学ぶことができた。



## ●研修を受けて感じたこと

今回の研修を通して、教育と医療という二つの異なる分野からモンゴルの国民性を感じることができた。特に教育現場では、子どもたちが社会課題に真剣に向き合う姿勢が見られた。私が授業を教えている生徒にも、モンゴルの高校生のように社会課題を自分ごととして考えられる力を育ててもらいたいと感じた。そのために残りの研修期間も多くのことを吸収し、日本での授業実践に活かせるよう全力で学んでいきたい。



# 研修日記

8月6日（水） 研修名 モンゴル研修4日目 氏名 藤森 菜月

## ●研修内容、行ったこと

- ・ NGO トルゴイト地区地域開発センターの施設の取り組みを視察
- ・ センターに通う子どもたちとの交流
- ・ 日本や北海道、日本の遊び等の紹介
- ・ 昼食（おにぎり）作り



## ●研修で得た学び

限られた環境の中でも、スタッフが協力しながら子どもたちの成長を支えている姿に、環境づくりの大切さを感じました。センターに通う子どもたちとの交流では、日本や北海道の紹介をしたり、日本の遊びを楽しんだり、昼食におにぎり作りをしたりしました。日本について知っている子や関心がある子も多く、日本とモンゴルとのつながりを見つけることができました。

モンゴルでは、日本は身近な外国かもしれないけれど、日本にとってモンゴルはすごく身近とはいえないかも、と思い、外国のことを知る意義について考えました。

## ●研修を受けて感じたこと

国は違っても、子どもたちの「知りたい」「学びたい」という気持ちは同じで、その思いを全身で表しながら生き生きと活動する姿がとても印象的でした。子どもたちが学ぶことに前向きである様子は、今回の研修で多くを吸収しようとする私たちの姿にも重なり、学ぶ意欲の大切さを改めて感じました。大人になるにつれ、知りたい！と思う気持ちを忘れがちですが、その純粋な探求心を大切にしていきたいです。言葉は通じなくても、表情やジェスチャーを通して気持ちがしっかりと伝わることも実感し、大切なのは心の通い合いなのだと感じました。



# ☀️ 研修日記 🖋️

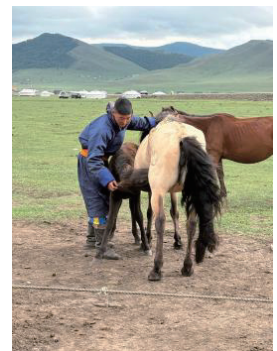
8月7日（木） 研修名 モンゴル研修5日目 氏名 小野 竜大

## ●研修内容、行ったこと

午前→「玉ねぎの品種改良による新ブランドの確立と  
フードバリューチェーンの構築」モデル農園視察、ゲル体験  
午後→酪農体験

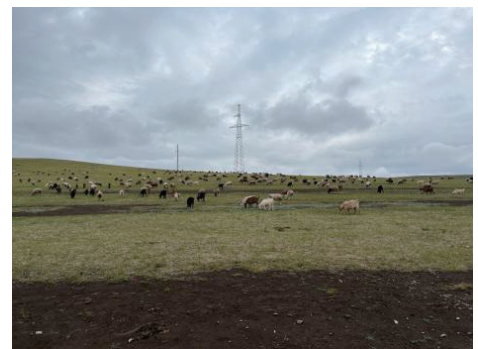
## ●研修で得た学び

午前中は、滝川市が主体となり行っている草の根技術協力事業「玉ねぎの品種改良による新ブランドの確立とフードバリューチェーンの構築」のモデル農園を視察しました。モンゴルでは野菜の自給率向上が大きな課題です。なかなか雨が降らないモンゴルでは水の確保も課題ですが、この農場では地下水を活用していました。その後のゲル体験では、伝統的な暮らしの知恵に触れました。モンゴルと言ったら「ゲル」というくらいモンゴルを象徴している存在に気持ちが高ぶりました。そこでは、スーテーツァイ（ミルクティー）、馬乳酒、ウルム（クリーム状の乳製品）などモンゴルらしい飲食物を堪能させていただきました。午後は、車で移動し、別の場所へ行き、どこまでも広がる草原の下で馬がいる風景は、北海道の風景とはまた違う圧倒的なスケール感がありました。



## ●研修を受けて感じたこと

今回の視察を通じ、日本（特に北海道）の技術がモンゴルの食卓を支えようとしている現場を目の当たりにしました。モンゴルの人々が日本を身近に感じている背景には、こうした長年の草の根活動の積み重ねがあるのかもしれないと実感しました。子どもたちの純粋な探究心も、農業の発展に挑む大人たちの熱意も、根底にある「より良く学び、成長したい」という願いは共通しています。モンゴルで見出した日本との繋がりや、お互いの文化を尊重し合う姿勢を忘れず、これからも異なる環境や価値観を持つ人々と真摯に向き合う視点を持ち続け、自分自身の成長に繋がっていきたいと思います。



# 研修日記

8月8日（金）      研修名 モンゴル研修6日目      氏名 荒井 清貴

## ●研修内容、行ったこと

モンゴル日本人開発センターを見学し、スタッフの方から事業紹介を受けた後、私たちが抱いた疑問について質疑応答を行いました。その後、日本語初級クラスの生徒たちとフリートークを行いました。



午後は、JICA モンゴル事務所にて、この教師海外研修全体の振り返りを KJ 法を用いて行いました。

## ●研修で得た学び

開発センターでの質疑応答を通して、日本式経営講座では、日本の仕事のあり方などを学べることから現地のビジネスパーソンに人気があること、モンゴルの人々が外国語習得に強い意欲を持ち、それが言語能力の向上につながっていること、日本以外の留学先の選択肢など、多くのことを学びました。



最後の振り返りでは、これまでの研修で印象に残ったこと、気づき、展望、願いをそれぞれが書き出し、グループごとに KJ 法でまとめて発表しました。

## ●研修を受けて感じたこと

日本語初級クラスでのフリートークでは、生徒たちが今使える日本語を懸命に話そうとする姿に感銘を受け、私たち教員グループも彼らのためになる話を心がけました。また、どの生徒もナルト・ワンピース・K-POP が好きで、日本の高校生とよく似た趣味を持っていることに親近感を覚えました。



# ☀️ 研修日記 🖋️

8月9日(土)

研修名 モンゴル研修7日目

氏名 山田 翔子

## ● 研修内容、行ったこと

・チンギス・ハーン国際空港(モンゴル) →

韓国(仁川空港) → 日本(羽田空港)



## ● 研修で得た学び

チンギスハーン国際空港 13時20分発の飛行機に乗るため、11時過ぎには空港に到着。しかし、どこのカウンターも長蛇の列で驚きだった。特に、私たちのように韓国(仁川国際空港)へ行く人(主に韓国人)が多く、航空会社もアジアナ・JeJU・t'way・JINAIR(後半3つはLCC)など、韓国系の航空会社の多さが目立った。また、1つのカウンターには日本人の高校生らしき集団がおり、その航空機の行き先が富士山静岡空港だったのでその関係について調べてみた。静岡県とモンゴル国ドルノゴビ県が平成23年7月～友好協定を締結したことから、毎年静岡の高校生20名がモンゴル・ドルノゴビ県に訪問し現地の高校生と交流・異文化体験を行っていることが分かった。



チンギスハーン国際空港は、日本の円借款を活用して建設されており、日本と共通する雰囲気や運営スタイルが見られた。似たような雰囲気だった。トイレがTOTOだったり、保安検査がとても厳重だったりと随所に日本を感じられる場所だった。

## ● 研修を受けて感じたこと

モンゴルから韓国に入国した時、一気に日本が近くなったように感じた。モンゴルは、韓国系のお店(CU・GS25などのコンビニ)や若年女性は韓国系のメイク・ファッションが多く、見た目には日本を感じることは少なかった。しかし、仁川国際空港にはスタバがあり、航空ラウンジには箸、餅(トッポギ)、鶏肉(ヤンニョムチキン)、サツマイモの天ぷらがあり、少しずつ日本に近付いていることを実感した。おそらく「文化」というものは、こうしてグラデーションで繋がっており、近ければ近いほど似たものが多い…という当たり前のことを体感した。



# 研修日記

8月10日(日) 研修名 モンゴル研修8日目 氏名 本間 千尋

## ●研修内容、行ったこと

羽田空港からそれぞれの家路につく

## ●研修で得た学び

今回のモンゴル海外研修を通して、モンゴルの伝統的な生活と都市部での生活、現地の若者や子どもたちとの触れ合いから多くの気づきを得ました。また、広大な草原での伝統的な遊牧生活をする人たちは自然と共に暮らしている一方で、異常気象などの影響で遊牧生活を続けられなくなり、都市部へ移り住む人たちも増えている現状を知りました。都市部、特にウランバートルでは交通渋滞や大気汚染などの深刻な社会問題が見られます。しかしその中でも、新モンゴル学園では、社会問題を「自分事」として捉え、積極的に話し合う若者たちの姿がありました。彼らは日本語を学び、将来日本に留学したいという夢を持ち、意欲にあふれていました。また、ウランバートルのゲル地区に住む子どもたちとは、おにぎりを一緒に作ったり、日本の遊びを楽しんだりしながら、夢や好きなことを直接聞くことができました。子どもたちの笑顔はとても輝いており、困難な状況でも夢を持つことで前向きに努力する力になることを改めて実感しました。



## ●研修を受けて感じたこと

私がこのモンゴル教員研修に参加したのは、過去に研修に参加した先生方がその国のことを心から好きになり、自分の価値観が変わるきっかけとなったという話を聞いたからです。実際にモンゴルを訪れてみて、私自身も現地の文化や人々の温かさに触れ、深く感動し、心からモンゴルのことが大好きになりました。広大な自然や伝統的な生活、そして都市部が抱えるさまざまな課題に触れたことで、自分の考え方や視野が大きく広がったと感じています。

この貴重な経験を、単なる思い出で終わらせるのではなく、今後の授業づくりに活かしていきます。日本の子どもたちがモンゴルのことを学ぶことで、自分の身近な世界にも愛着を持ち、多様な価値観を理解し、視野を広げるきっかけになるような授業を作っていきたいです。これからの授業づくりに全力で取り組み、子どもたちの心と視野を豊かに育てていきたいと思います。



プログラム

帰国後研修

日時：2025年9月13日(土)13:00~18:30 14日(日)9:00~12:20

場所：JICA 北海道（帯広）センター

目的：①モンゴルでの研修を通して収集した情報整理・共有を行う。

②各自が作成した指導案の共有・検討作業を通して改善点を明確にし、教材化を行う。

### 9/13（土）【プログラム 1日目】

時間	内容
13:00~13:05	開会、事後研修プログラム確認
13:05~14:00	指導案発表 25分・指導案検討 30分（計 55分） ① 釧路市立鳥取小学校 本間先生
14:00~14:10	休憩（10分）
14:10~15:05	指導案発表 25分・指導案検討 30分（計 55分） ② 幕別町立札内北小学校 小野（竜）先生
15:05~15:15	休憩（10分）
15:15~16:10	指導案発表 25分・指導案検討 30分（計 55分） ③ 旭川藤星高等学校 小野（瑞）先生
16:10~16:20	休憩（10分）
16:20~17:15	指導案発表 25分・指導案検討 30分（計 55分） ④ 北海道中標津高等学校 荒井先生
17:15~17:25	休憩（10分）
17:25~18:20	指導案発表 25分・指導案検討 30分（計 55分） ⑤ 札幌市立元町中学校 山田先生
18:20~18:30	事務連絡
18:30	1日目終了

### 9/14（日）【プログラム 2日目】

時間	内容
9:00~9:55	指導案発表 25分・指導案検討 30分（計 55分） ⑥ 北海道室蘭養護学校 山西先生
9:55~10:05	休憩（10分）
10:05~11:00	指導案発表 25分・指導案検討 30分（計 55分） ⑦ 利尻富士町立鷺泊小学校 藤森先生
11:00~11:10	休憩（10分）
11:10~12:05	指導案発表 25分・指導案検討 30分（計 55分） ⑧ 札幌市立北野中学校 菅井先生
12:05~12:20	事務連絡・記念撮影
12:20	終了

# 研修日記

9月13日(土) 研修名 事後研修1日目 氏名 菅井 誠

## ●研修内容、行ったこと

指導案検討会は以下の順番と内容で行った。

- ①本間 千尋 先生(釧路市立鳥取小学校)  
「のこしたい!わたしたちの文化」
- ②小野 竜大 先生(幕別町立札内北小学校)  
「モンゴルについてカードゲームや衣食住で疑似体験し、多様な文化を理解する。」
- ③荒井 清貴 先生(北海道中標津高等学あ校)  
「日本の当たり前が世界を変えるかも...!」
- ④藤森 菜月 先生(利尻富士町立鴛泊小学校)  
「せかいとなかよし~こんにちはモンゴル!」
- ⑤山田 翔子 先生(札幌市立元町中学校)  
「合意形成に向けて話し合おう-課題解決のために会議を開く」

※上記指導案タイトルは、研修当時のものです。

## ●研修で得た学び

法律上、教員は学習指導要領に沿った授業を構成しなければならない。その具体化が「学習指導案」である。今回の研修で水谷アドバイザーから「生徒への指導時に『単元の評価規準』と指導案の『内容』に齟齬があってはならない」とご指摘をいただいた。

指導案は、教員が頭の中で描いている目標や目的を外部に示す役割を担う。ここに不正確さがあれば、目指す授業や生徒に身につけさせたい力——すなわち「指導と評価の一体化」——が十分に実現されない可能性がある。そのため、改めて構成を練り直す必要性を強く感じた。内容が発達段階に合っているか、時間配分は適切か、アクティビティの難易度はどうか、どこまでを教え、どこから生徒自身の理解に委ねるのか、といった点を吟味することが重要である。

## ●研修を受けて感じたこと

参加した先生方の指導案やアクティビティからは、「モンゴルのことを生徒に伝えたい!」という熱意が随所に感じられた。非常に洗練された授業構成もあれば、試行錯誤の途上にあるものも見受けられたが、いずれも前日まで悩み抜いて絞り出した成果であることが伝わってきた。さらに、JICAやJOCAのスタッフの方々からも鋭い指摘や的確なアドバイスをいただき、忌憚のない、まさに侃侃諤諤の意見交換が行われた。このやり取りは非常に有意義であり、今後の授業改善に大いに資すると感じた。



# 研修日記

9月14日(日) 研修名 事後研修2日目 氏名 山西 真理

## ●研修内容、行ったこと

指導案検討会

①山西 真理 先生 (北海道室蘭養護学校)

「違いがあって、イーネ!!」

②小野 瑞貴 先生 (旭川藤星高等学校)

「水の当たり前」

③菅井 誠 先生 (札幌市立北野中学校)

「近くて知らない国モンゴルのお話」

※上記指導案タイトルは、研修当時のものです。

## ●研修で得た学び

昨日に続いて、指導案の検討を行った。モンゴル研修で様々な情報を得た私たちは、生徒たちにあれもこれも伝えたいという気持ちが強く、情報の精選と整理に時間を要した1ヶ月だったように感じる。しかし、指導案作成にあたって、私たちは生徒たちにどのような力を身に付けさせたいか、どのような変容を期待するのかというねらいを明確にする必要があり、そのねらいに迷いがあると内容との不一致が生じることとなる。自分自身がしっかりとねらいを明確にし、そのねらいを達成するためにはどのような活動が良いのか、またその活動を通して、どのような変容があるのかを落とし込むことが大切であると再確認した。



## ●研修を受けて感じたこと

モンゴル研修を受け、生徒たちにどのようなことを伝えたいかを考え、指導案を作成した。迷いながら作り上げてきた指導案をチームで検討してもらったことで、多角的な意見を聞くことができ、一人では気付かなかったことに気付けた時間となった。授業実践までに、今日検討した内容を整理し、より生徒たちの心を揺さぶり、学びのある授業作りができるように力を入れていきたい。





プログラム

成果報告会①

国際理解教育セミナー【共有編】

日時：2025年11月29日（土）13:00～17:40

場所：JICA 北海道(札幌)、オンライン

参加：海外研修参加者8名、アドバイザー2名、JICA 北海道、JICA 国際協力推進員2名  
青年海外協力協会（JOCA）、一般参加者

12:30	受付開始
13:00～ 13:05	成果報告会スタート 開会挨拶 JICA 北海道（札幌）
13:05～ 13:25 (20分)	本研修の概要(授業づくりの視点を含む) 利尻富士町立鷺泊小学校 藤森菜月 教諭
13:25～ 14:25 (60分)	模擬授業体験①（授業 40分、振り返り 20分） 【総合・音楽・社会】 「文化が消える？未来をつくるのは、私たち」 釧路市立鳥取小学校 本間千尋 教諭
	休憩(5分)
14:30～ 15:30 (60分)	模擬授業体験②（授業 40分、振り返り 20分） 【国語】 「合意形成に向けて話し合おうー課題解決のために会議を開く」 札幌市立元町中学校 山田翔子 教諭
	休憩 5分(移動を含む)
15:35～ 16:05 (30分)	【教材紹介セッション①】 ■A【社会（地理）】 「近くて知らない国モンゴルのお話」 札幌市立北野中学校 菅井誠 教諭 ※当日は体調不良の為、欠席 ■B【総合的な学習の時間】 「モンゴルの暮らし、その背景を探る旅」 幕別町立札内北小学校 小野竜大 教諭
	休憩 5分(移動を含む)
16:10～ 16:40 (30分)	【教材紹介セッション②】 ■A【生活・国語・道徳】 「せかいと なかよし ～こんにちはモンゴル！」 利尻富士町立鷺泊小学校 藤森菜月 教諭 ■B【総合的な探究の時間】 「社会を変える?! 高校生のソリューション」 北海道中標津高等学校 荒井清貴 教諭
	休憩 5分(移動を含む)
16:45～ 17:15 (30分)	【教材紹介セッション③】 ■A【総合的な探究の時間】 「違いがあって、イーネ！！」 北海道室蘭養護学校 山西真理 教諭 ■B【地理総合】 「モンゴルの水と見えない水」 旭川藤星高等学校 小野瑞貴 教諭
17:15～ 17:40 (25分)	・参加者からの感想の共有 ・アドバイザーからのコメント ・アンケート ・JICA からの諸連絡 ・記念撮影
17:40	終了

※このプログラムは、国際理解教育セミナー（共有編）を兼ねます。



日時：2025年11月30日（日）9:00～12:00

場所：JICA 北海道(札幌)

参加：海外研修参加者8名、アドバイザー2名、JICA 北海道、JICA 国際協力推進員2名  
青年海外協力協会（JOCA）、一般参加者

9:00	スタート	
9:00～ 9:30 (30分)	【写真で見るモンゴルの教育と人材交流】	JICA 苫小牧デスク 藤島推進員
9:30～ 11:00 (90分)	【学びの共有】KJ法を模したグルーピングにて ・「学び」を振り返る ① 事前・事後研修(人とのつながり) ② 現地研修 ③ 授業づくり  ※①～③、3色付箋を分ける ★別途スペシャル付箋あり  【研修を振り返って】 他己紹介形式で繋ぐ 〇〇さんの人物像、チームでの役割、これからの〇〇さん など	ファシリテーター 水谷アドバイザー        コメント 東峰アドバイザー
	休憩（10分）	
11:10～ 11:50 (40分)	【今後学んだことをどう現場で活かすか・継続していくか】	ファシリテーター 東峰アドバイザー
11:50～ 12:00 (10分)	JICAからの諸連絡	JICAより
12:00	終了	

# 研修日記

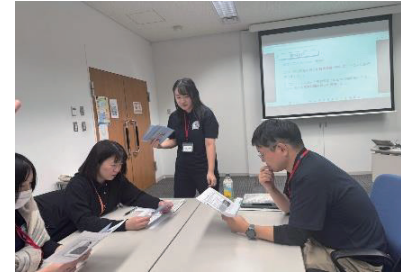
11月29日（土） 研修名 成果報告会1日目 氏名 小野 瑞貴

## ●研修内容、行ったこと

11月29日（土）は、これまで取り組んできた研修のまとめとして、授業実践に関する報告会を行った。事前研修や現地研修を通して得た学びをもとに、それぞれが工夫して作成した教材を持ち寄り、学校関係者の方や一般の方に実際に見ていただいた。

報告会では、現地での体験や気づきをどのように授業に落とし込んだのかを紹介しながら、教材に込めた思いやねらいについても共有した。来場された方々から感想や質問をいただく中で、自分の考えを改めて整理する良い機会となった。

また夜には、これまでの研修を振り返りながら参加者同士で食事を共にした。約7か月にわたる研修期間を思い返し、それぞれの経験や感じたことを語り合う中で、これまでの歩みを分かち合う時間となった。



## ●研修で得た学び

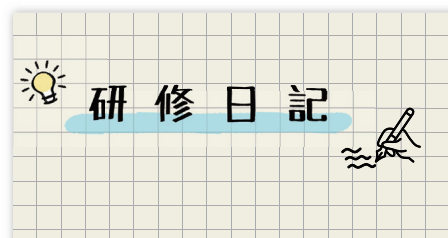
今回の報告会を通して、教材は一人で考えるだけでなく、さまざまな人に見てもらうことで、より深まっていくものだと感じた。学校関係者の方や一般の方など、立場の異なる方々からの意見は、自分では気づけなかった視点を与えてくれた。特に、教材の内容がどのように伝わるのか、生徒にとってどんな学びにつながるのかを改めて考えるきっかけになった。現地での経験を、授業の中でどのように生かしていくかについて、理解を深めることができたと感じている。



## ●研修を受けて感じたこと

教員以外の方からアドバイスをいただけたことが、とても印象に残っている。専門的な視点とは異なる、率直な感想や疑問に触れることで、教材を新たな角度から見つめ直すことができた。

これまで主に「教える側」の視点で作ってきた教材を、「受け取る側」の立場で考え直すことで、さらに工夫できる点があることにも気づいた。今回の研修で得た学びを、今後の授業に少しずつ取り入れながら、生徒にとってより身近で意味のある学びにつなげていきたいと感じている。



11月30日（日）      研修名 成果報告会2日目      氏名 藤森 菜月

● 研修内容、行ったこと

- ・写真で見るモンゴルの教育と人材交流
- ・研修の学びの共有、振り返り
- ・今後の展望（現場でどう活かし、継続していくか）の交流

● 研修で得た学び

授業づくりについて振り返ったときには、他の先生方と進捗状況等は話をしていたものの、実際にどのようなことをしていたかは見えていないところであったため、自分と同様に非常に悩み苦しんでいたことを知り、もっと辛いことも共有して一緒に分かち合いながらできればよかったなと思いました。

● 研修を受けて感じたこと

今回の研修全体を改めて振り返ってみて、約半年でしたが、すごく濃密な時間を過ごし、年齢や経験などは関係なく一緒に学び、高めあえる仲間たちと出会えたことが幸せだなと思いました。私は、狭いコミュニティの中で働いているので、道内各地に共に頑張っている先生がいると思えることは、今後の励みになると感じています。また、今後の展望について考えたとき、今までは自分のキャリアデザインはぼんやりとしたものでしたが、教師海外研修での経験を生かした働き方という視点が自分の中に生まれたのは非常に大きな成果だと思いました。国際理解教育について、私が勤務する管内では実践を聞いたことがないので、自分がリードできる存在になれるよう、これからも努力していきたいと思えます。

